

ネパール支援ヨーガ・バスボランティアの感想文

羽田についてのは、待ち合わせ1時間前だった。伊藤園にてほうじ茶と抹茶のクリームあんみつ、続けてプレミアム生クリームソフトを食べた。この頃、私の頭にネパールへ行くという気持ちはなく、美味しい思いをしていた。羽田は、竹を基調としたイルミネーションがされてとてもきれいだった。11月19日バンコク、2:22カトマンズ着。3:44バイシャリホテル着。陽気はまぶしく暑かった。カトマンズは、空気が悪く買い物をしても、咳をしている人が多い。車でホテルに向かう途中で、デモにあった。医療品を求めるデモだった。ネパール語で「ありがとう」は、「ダンニャワード」ということを覚えた初めての言葉であった。

メンバーの会議であいさつした。「善如寺碧子です。第2期YTICの1年生です。ヨーガを初めて約2年になります。まだ始めたばかりですがよろしくお願ひします。」というような事を言った。

タクシーでホライズン・ポイントホテル、キウイ・ヴィレッジリゾートについて。私が、私たちが泊まるホライズン・ポイントホテルは、慧心先生がDVDで紹介されていたとおりであり、きれいでかわいい部屋だった。「こんなかわいい部屋に泊まれる私ってすごい対応だなあ。碧子ちゃん、えっへん。」と思った。

ホライズン・ポイントホテルの近くの、サラスワティ学校に着き、早速ボランティアが始まった。なにやら、前々から、「私がさくらになれ。」と言われていたが、みんなの前でジャガイモ袋か何か知らないが、袋を持ってきてポーズをやれと言われて、いきなりやる事になった。

それは、無残に桜が散るが如くの問題人になった。

1つ目の問題は、「ペンを2つ持っている少年は、他の人にあげなさい。」という、事に手をあげた少年を尊敬の眼差しで、見てしまったことである。これは、良くない事だ。ネパール人として金銭感覚のプライドを傷つけてしまった。

2つ目にアンケート用紙を書いているのをカンニングしてしまったことである。これは、勉強に対して、不真面目であった。

3つ目は、はだしの少年らに対して靴を触って自慢しまった…もう、この頃は自棄になっていた。

私は、思い出した。「私は、性格に有り余るほど問題があるのだ…。」と…。

問題はまだあった。自分に出来ることはないかと考え、慧心先生に無断でテプラのシールをガヤトリー・マントラを作り配り、宗教的に問題があると後で聞き、大変不評で皆が嫌な思いをし、皆が足元に捨てていったことである。實力不足（無智）を思い知った。

後で悲しく、後ろで、「なんてヒマラヤは、美しいのだろう。これほど感動するとは思わなかった。何でこんなにすごいのだろう。」と嘆きの喜びを深く初めて浸った。

それを次の日、ステージの袖のゴミ捨て場から私は、ブラフマンの宿るシールとして次の

日は、捨ったのだった。

新しいキャラクターを着ている少年を笑いそうになり、「私の性格の悪さは、物凄いものがある。」と、思った。私の家族も「よく私に我慢しているな…。」と、正直性格の悪さの余り固まってしまった。肩も首も凝ってしまい、虎谷さんに針を打ってもらった。

アーサナのボランティアは、無事終わり、村を見に行った。サフィラさんが私の面倒をみてくれた。サフィラさんが、「ビー・スタディー、ビー・スタディー。」と言ったので、(解りました、1歩1歩が、勉強なのですね…)と置いていたら、「ゆっくり、ゆっくり…」と言う意味だった。私にしてみれば、どちらも同じ意味だった。とても感じがよく、きれいで優しい人だった。とても、私を癒してくれた。ここで感謝を述べさせていただきます。

次に待ちに待ったヒマラヤを見に、飛行機に乗った。どれがエベレストか解らなかった。でも、この山が神聖だと思う山あり。しかし、山がありすぎる。この山の1つを信じたのだから幸せだ。ずっと、ヒマラヤ自体を見たかったのだからとても感動した。

次に皆で観光になった。広場のブッダ・アイが、崩れてなくなっていた。世界の平和を見る眼だそうだ。観光客はたくさんいたが、よく犬がよく死んだように寝ていた。

次に、他にも寺院へ行った。高台の寺院に行った。売り子が布の袋が10枚1000ルピーで売っていた。平塚さんが、「500ルピーになるよ。」と言っていた。階段を上がると、古いカッコいい寺院と眺めのいい景色があった。私は、階段の座った獅子の後ろ姿から見える股間の睾丸の写真を撮って、悪ふざけをしていた。すっかり皆すっかりして、帰ってきて、車に乗るうち、10枚の袋の声は、500ルピーになり、ついには最後の声は300ルピーになっていた。

次はショッピングをダンさんに母と私が付き合ってもらった。車で通った時見えたカーリー女神のTシャツが欲しいと私は言い、買いに行った。15才の少年が、番をしていた。咳をしていた。空気がひどく悪い。なんだか胸が痛んだ。

次にクリシュナ神の若干小さな像を買った。今でも、どこでも、クリシュナ神と一緒にいきたいと言う時は、一緒だ。

最後に、ネパールのヘルパーさんが、おごってくれたご馳走は、美味しく見世物も面白かった。

飛行機で帰ることになった。タイでダルクにボランティアをするグループと離れた。

タイのバンコクで、吉沢先生と買い物をしつつ、タイ料理を満喫した。

高速タクシーに乗り、いろいろ振り返りながら帰った。

帰ってきて思うが、こんな体験ができて幸せだったと思う。もう少ししたら、もっと心から、思う事も可能であるだろう。そのためには、おしゃべりしすぎない事に気をつけなければならぬ。しかし、それはひどく難しい。その為には、感想文の課題で記す事が大切だろう。